

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 中央区立晴海中学校

1 課題

- 【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題
【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題

児童・生徒の学力の課題	
国 語	<p>【4月】</p> <p>昨年度の課題として、1年生（現2年生）は、領域別正答率では「言葉の特徴や使い方に関する事項」以外の全ての領域、問題の内容別正答率では「漢字を書く」以外の全ての内容で全国平均正答率を下回っている。また、2年生（現3年生）は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、領域別正答率では「漢字を読む」「漢字を書く」「文法・語句に関する事項」が全国平均正答率を下回っている。</p> <p>【10月】</p> <p>学習力サポートテストの結果から、1年生は、特に「文法・語句に関する事項」で区の平均正答率を下回っている。2年生は、領域別正答率において「我が国の言語文化に関する事項」以外の項目において区の平均正答率を下回っている。3年生は、特に「漢字を読む」で区の平均正答率を下回っている。</p>
算数・数学	<p>【4月】</p> <p>昨年度の課題として「関数」分野の校内平均正答率が全国平均正答率と比べ1.3%低くなってしまったという点と観点別正答率での主体的に学習に取り組む態度が全国平均を1.6%下回っているという点が挙げられたため、身近で活用される数学に触れる機会を増やし、生徒が主体的に学習に取り組める環境を整えるとともに基礎・基本の知識・技能の定着を今年度の目標とする。</p> <p>【10月】</p> <p>学習力サポートテストの結果から、昨年度の課題として挙がった「関数」分野において校内正答率が全国正答率より上回っている問題が多い傾向が見られた。ただし、1次関数のグラフの描画において、校内正答率が全国正答率より0.9ポイント低いという結果が見られたため、分野によって知識のもれがないように知識・技能の定着を徹底する必要があることが課題として挙がった。また「データの分析」の分野において、校内正答率が全国正答率に比べ2.7ポイント低いので、「データの分析」分野における知識・技能の向上させる指導を徹底する。</p>
社 会	<p>【4月】</p> <p>昨年度の課題として小学校段階からの知識の定着が乏しいことがあげられたため、学習してから時間が経過した範囲における知識の保持を促す。進級した際に知識量が低下することを防ぐために小テストによる習熟度チェックで無回答を5%以下にすることを目標とした。その目標は概ね達成できたため、今年度は定着した知識を思考・判断・表現に落とし込むことを目標とする。</p> <p>【10月】</p> <p>学習力サポートテストの結果から、社会のポイントが全体の平均値に近い数値が見られたため、昨年度からの施策の成果として知識の定着が進んでいるとみられる。今後は思考力・判断力・表現力を高めるために、単元末レポートを実施することで、単元の内容を発展的に捉えられるようにすることを目標とする。</p>
理 科	<p>【4月】</p> <p>昨年度における課題として、知識・技能の観点における正答率が著しく下回っていることがわかった。知識の定着をめざし、小テストや自分の言葉で説明させるなどの機会を多く設ける必要がある。また、技能の定着に向けて、実験に限らず、実物に触れる時間を増やし、身近なものと捉えられるように促していく。今年度は、知識・技能の定着を目標とする。</p> <p>【10月】</p> <p>学習力サポートテストの結果から、平均値を下回る数値が多くの項目で見られた。一方で、思考・判断・表現を問われる問題では、平均点を上回る数値が見られた。このことから、知識のさらなる定着が課題として挙げられる。対話を充実させた授業展開や、小テストなどを行ってくことで改善を図る。</p>

英語	<p>【4月】</p> <p>昨年度の課題としては、書く力のポイントが全国平均と比べて芳しくなかった。授業でも話したことを書いたりするなどして、活動の終末が書く活動で終わるようなタイミングを作っていくたい。引き続き、長所である話す力は伸ばしつつ、それを文字に起こす力も高めていきたい。</p> <p>【10月】</p> <p>学習力サポートテストの結果から、英語のポイントが全体の平均値を大きく上回る数値が見られた。昨年度からの施策の成果として知識の定着が進んでいるとみられる。今後は思考力・判断力・表現力を高めるために、即興的な会話などアウトプットの機会を増やして学力向上につなげることを目標とする。</p>
体力向上	<p>【4月】</p> <p>「持久力・筋持久力」を必要とする種目が低い傾向にある。男女とも共通した結果から、授業内で補強運動を継続的に実施することが課題である。</p> <p>【10月】</p> <p>「スピードと全身持久力」を必要とする種目が低い傾向にある。男女とも共通した結果から、授業内で補強運動を継続的に実施することが課題である。</p>

2 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国語	<p>【4月】</p> <p>漢字の読み書きの力を全国平均正答率まで上げる。文法や語句の知識問題の正答率を上げる。</p> <p>【10月】</p> <p>「文法・語句の使い方」を区の平均正答率まで上げる。また、「漢字を読む」の領域についても区の平均正答率まで上げる。</p>	漢字の読み書き能力を向上させるために、漢字テストを定期的に行う。文法や語句の知識を定着させるために、反復学習を行う。
算数・数学	<p>【4月】 関数の分野において、知識・技能が定着させる。また、生徒が見通しを持ち主体的に学習に取り組むことのできるようにする。</p> <p>【10月】</p> <p>主に「関数」、「データの分析」分野の知識・技能の定着を徹底する。また、「関数」分野においては知識・技能の定着が進みつつあることから思考力、判断力、表現力の育成を図ることができるよう授業をデザインする。</p>	関数の分野において、知識・技能が定着するように視覚的にわかりやすい教材を用いて授業を進める。また、生徒が見通しを持てるよう毎授業で単元の流れを提示するようする。
社会	<p>【4月】</p> <p>知識・技能の定着を思考・判断・表現につなげるために、単元全体として課題解決型授業を開催し、生徒が見通しを持ちながら学習できる取り組みを行う。</p> <p>【10月】</p> <p>知識・技能の定着が進んでいることが見られるため、思考力・判断力・表現力の伸長を目指して、授業展開を行っていく。</p>	学期に2回の課題解決型授業の実施と、授業内における生徒の活動を正しく評価するための評価プランの構築を行う。
理科	<p>【4月】</p> <p>知識・技能の定着を実現するために、生徒自身が発言する機会や、実験を重要視した授業展開をもとに行っていく。</p> <p>【10月】</p> <p>知識の定着に向けて、対話を充実させた授業展開や、小テストなどを行っていく。</p>	実物として捉えにくい分野での、思考力や捉え方を養うことができない。また、大地のつくりと変化、水溶液の性質では、基本的な知識を定着させることができず、思考・判断・表現も定着できていない。

英語	<p>【4月】 自分の考えを話し、その話したことを文字にする活動を積極的に行っていきたい。また、自分が書いた文章を話すという逆の視点からの活動も取り入れていきたい。</p> <p>【10月】 知識技能の定着が見られたため、インプットの量は増えていると感じる。授業を中心に表現力の向上を意識した活動を取り入れていく。</p>	会話表現のパターンプラクティスを経て、それを「使える英語」にする帶活動などを取り入れていきたい。また、スピーキングテストの活動を通して、即興的な会話表現のトレーニングも積んでいきたい。
体力向上	<p>【4月】 新体力テストでは、全学年全国Tスコア50を目標とし、平均を超える取り組みを行う。</p> <p>【10月】 新体力テストでは、全学年全国平均以上を目標とし、授業の導入時、準備運動、補強運動、整理運動を各単元の特性に合わせて行う。</p>	授業の導入時、準備運動、補強運動、整理運動を各単元の特性に合わせて行う。運動会、連合陸上、体育的行事との取組に関連付けて、生徒の体力向上の意識を高めていく。

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
取組	本校の研究テーマである「生徒が意思を持つ単元計画」を実践し検証する中で、生徒が選択する場面を意図的につくり、主体性の向上を目指す。具体的には数学科の自由進度学習、理科の実験計画・実践・共有等を行い、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。

探究的な学びの充実	
取組	理科における自由研究、社会科における国調べ、技術科におけるパワーポイント作成、総合における各行事の事前学習など各教科においてテーマに合わせた調べ学習と発表方法の指導と発表の機会の充実をはかる。

読解力の育成	
取組	各学年モーニングタイムにおける朝読書の実践、第二学年国語科においてビブリオバトルの実施によって読書習慣の定着をはかる。 言語教科の国語科、英語科における長文読解、発表の機会の充実により読解力の育成に励む。